

株主のみなさまへ

…………… Vol.55

株主通信 第116期第2四半期

2022年1月1日～2022年6月30日



**SHIMANO**

表紙:北海道 屈斜路湖のトラウトフィッシング

**SHIMANO**



代表取締役社長

島野 泰三

## 事業の経過および成果

当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス（COVID-19）の流行に伴う経済活動の制限の緩和が見られた一方で、ウクライナ情勢を受けた世界的な資源価格の高騰、インフレの高進や中国経済の減速等により世界経済の回復ペースは依然足踏み状態のままとなりました。

欧州では、行動制限が緩和され経済活動の正常化が進むなか、エネルギー価格高騰によるインフレが影響し消費者マインドは急速に悪化しました。

米国では、インフレの加速が景気への下押し圧力をもたらした一方で、労働市場の回復が持続したことに加え、経済対策で積み上がった家計貯蓄に支えられ、個人消費は堅調に推移しました。

中国では、ゼロコロナ政策により経済活動の制限が強化され、個人消費は引き続き低迷しました。

日本では、資源価格の上昇や新型コロナウイルス感染状況の先行きの不透明感が強いものの、経済活動の正常化が進み個人消費に持ち直しの兆しが見られました。

このような環境の下、一部工場においてロックダウンに伴う一時的な操業停止が生じた一方で、自転車、釣具の需要は落ち着きを見せつつも依然として底堅く、当第2四半期連結累計期間における売上高は303,686百万円（前年同期比14.7%増）、営業利益は80,909百万円（前年同期比15.7%増）、経常利益は92,123百万円（前年同期比24.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は68,558百万円（前年同期比22.4%増）となりました。

## 自転車部品

世界的に注目を浴びた自転車への高い関心は落ち着き始めたものの、依然として自転車の需要は新型コロナウイルスの感染拡大前を上回る水準で推移しました。完成車の市場在庫は、底堅い需要が続くハイエンドクラスは低い水準で推移した一方、供給が追いついたエントリークラスは高い水準で推移しました。

海外市場において、欧州市場では、引き続き好調なE-BIKE需要に支えられ、自転車および自転車関連商品の販売は底堅く推移しました。完成車の市場在庫について、一部地域の需要が落ち着きを見せ始めたこともあり適正な水準に近づきました。

北米市場では、ハイエンドクラスの完成車の需要は底堅く市場在庫は低い水準で推移した一方、ミドルクラスの需要は落ち着きを見せ始めました。

アジア・中南米市場では、自転車への強い関心は沈静化し、日本市場においては、引き続きスポーツ自転車と電動アシストバイクに対する需要は底堅く推移した一方で、エントリークラスのロードバイクの在庫不足もあり店頭販売は低調でした。

このような市況の下、ロードバイク向け高級モデル「DURA-ACE」と「ULTEGRA」、電動アシストスポーツバイクコンポーネントSHIMANO STEPSシリーズをはじめ、幅広い製品に対して多くのご注文を頂きました。

この結果、当セグメントの売上高は249,203百万円（前年同期比17.2%増）、営業利益は69,581百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

## 釣具

世界的に注目を浴びた釣りへの関心は、落ち着きを見せ始めま

した。

日本市場においては、ファミリー層や初心者層向け製品の動きに一服感が見られた一方、高・中価格帯の製品の販売は順調でした。

海外市場においては、北米市場ではインフレの影響が懸念されたものの、釣具への需要は強く販売は好調に推移しました。

欧州市場では、長期化するウクライナ情勢の周辺国への影響もあったものの、販売は底堅く推移しました。

アジア市場では、韓国・台湾市場での販売は好調に推移した一方で、中国市場の販売はロックダウンによる活動制限の影響を受けました。

豪州市場では、東海岸での洪水などの自然災害があったものの、販売は底堅く推移しました。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「STELLA」、両軸リール「ALDEBARAN BFS」などが市場から高い評価を受けるとともに、引き続き、スピニングリール「AERO TECHNIUM MGS」やオフショア関連のロッド「GRAPPLER」、 「GRAPPLER BB」なども販売に大きく貢献いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は54,235百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は11,335百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

## その他

当セグメントの売上高は248百万円（前年同期比14.2%増）、

営業損失は7百万円（前年同期は営業利益3百万円）となりました。

## 中間配当のご報告

当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。

この基本方針に基づき、今回の中間配当金につきましては、前年同期と同様の1株当たり117円50銭とさせていただきます。なお、当期の年間配当額についても、前期と同様の1株当たり235円を予定しております。

## 今後の見通し

2022年12月期の通期連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間においてドル高の進行に伴うアジア通貨安の影響から営業外収益が発生したこと等により、通期の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の予想について、下表のとおり変更いたします。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年9月

## 2022年12月期 通期連結業績予想数値の変更（2022年1月1日～2022年12月31日）

	売上高 (単位：百万円)	営業利益 (単位：百万円)	経常利益 (単位：百万円)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (単位：百万円)	1株当たり 当期純利益 (単位：円)
前回発表予想 (A)	580,000	161,000	163,100	117,500	1,289.24
今回修正予想 (B)	580,000	161,000	174,500	128,400	1,408.84
増減額 (B)-(A)	—	—	11,400	10,900	
増減率 (%)	—	—	7.0	9.3	
前期実績 (2021年12月期)	546,515	148,287	152,562	115,937	1,252.62

# 最新鋭のものづくり拠点を各国に

## 時代を見据えた“開発型デジタル製造業”を目指して

当社は、企業ビジョンに「価値創造企業」を掲げ、ものづくり企業として目指す姿を開発型デジタル製造業と位置づけて、研究開発、製造システム、そして製品そのものにデジタル技術を駆使しています。

日本とシンガポールの新たな2つの施設をはじめ、ものづくり機能の集約と先進的な設備の導入を通して、イノベーションを生み出してまいります。

### 海外生産拠点のハブとなる新工場SSIP (Shimano Singapore Intelligent Plant)

2018年から建設していた新工場であるSSIPが2022年1月に竣工しました。地下2階、地上5階建てのSSIPの建物内には、工場に加えてオフィススペース、ミーティングスペース、工場屋上には緑地と実走場も完備されています。

SSIPは、製品の開発や製造だけでなく、アジアを中心とした“地域統括拠点”としても重要な役割を果たしています。ものづくりでは新製品開発に取り組むとともに、海外におけるリーディング・マニュファクチュアリング・プラントとして、冷間鍛造・板金・切削・熱処理といった生産技術のハブ機能も担っています。その他にも海外工場の管理サポートやマネジメントスタッフの育成、物流ハブとしての機能など、その役割は多岐にわたります。

こうした高度で多様な業務を遂行するため、SSIPでは積極的にIIoT※化を推進しています。ものづくりのあらゆる段階で情報の収集・管理・見える化を進め、エネルギーやセキュリティをはじめ、ロボットの稼働状況まで、工場全体の管理システムを構築しています。また、より安全な職場環境の構築を目指し、従来以上に積極的な自動化を進めています。

※Industrial Internet of Things



シマノシンガポール 新工場(シンガポール・Bulim Walk)  
Shimano Singapore Intelligent Plant  
[概要] 敷地面積: 30,686㎡ 延床面積: 43,000㎡



〈屋内ガーデン〉  
屋内にも緑があふれ、  
リラックスできる  
空間となっています

### シマノの未来を創造する Technology Innovation Center

当社は、「開発型デジタル製造業」を実現するため、SSIPをはじめ国内外の施設において、ものづくりの機能の集約と先進的な設備の導入を進めています。加えて研究開発や製造システム、製品そのものに至るまでデジタル技術を駆使することで、顧客や社会、従業員のニーズに応えるビジネスモデルの変革を目指しています。取り組みの一つである「SDM(シマノ・デジタル・マニュファクチュアリング)推進プロジェクト」では、工場のIoT化や生産性向上を目的に、設備の稼働状況をデータで収集、各設備の故障や不具合のパラメータを集約して、品質評価や製造における評価の標準化を行っています。

企画・デザイン・開発など、ものづくりに関わる部署を集約したTechnology Innovation Center (TIC)は、開発型デジタル製造業・シマノを体現し、新たな価値創造の中心的役割を担っています。最新鋭の開発機器や生産設備を駆使し、未来のこころ躍る製品がこの地で生み出されていきます。地下には、自転車部品の組立を担うTIC工場が新設され、安全管理とともに徹底した生産効率化を追求しました。並行して、大幅な自動化・無人化にも挑戦しています。さらに、電子部品の増加に対応した電波暗室や、チェーン、モーター、ギアなどの音を測定する無響音室を設置し、また最新鋭の計測・分析装置や3Dプリンタなどを導入しました。これらの精密



Technology Innovation Center (大阪府堺市)



電波暗室

測定技術と設計から製造に至る高度なシミュレーション技術により、今後の開発プロセスそのものの変革を担っています。SDM活動をはじめとしたDXに取り組むことで、社会環境・ビジネス環境の変化に対応し、ステークホルダーの皆さまのニーズに応えるためにビジネスモデルの変革を進めています。

### 次世代のものづくりを体現するシマノのインテリジェントプラント

最先端のものづくりと徹底した生産効率化を実現するインテリジェントプラントは、世界中に広がっています。



シマノ本社工場 (大阪府堺市)  
Sakai Intelligent Plant



シマノ下関工場 新工場 (山口県下関市)  
Shimano Shimonoseki Factory  
Intelligent Plant



シマノ昆山第2工場 (中国・昆山市)  
Kunshan Intelligent Plant

## 自転車部品事業

Di2搭載・ハイクオリティの性能で  
より多くの方に「世界を広げる」体験を

SHIMANO  
**105** Di2  
DIGITAL INTEGRATED INTELLIGENCE

ロードバイクの本格エントリーモデルとして世界中のライダーに愛されている「SHIMANO 105」。この夏、その新型として初のDi2搭載モデルが発売されます。より多くのユーザーに自転車の楽しさを体感していただくために誕生した新105は、フラッグシップモデルである「デュラエース」「アルテグラ」の機能と技術を継承しつつ、ブランド独自の変革を遂げています。

大きなリニューアルポイントは、機械式変速から電動式変速(Di2=デジタル・インテグレイテッド・インテリジェンス)へのシフトチェンジです。機械式変速にはライダーの意志をダイレクトに反映させる操作感がある反面、その微細な調整に難しさを感じさせる点もありました。そこで電動式であるDi2を搭載することにより、ボタンひとつで極めて正確な変速が瞬時に可能となり、ロードバイクを初めて体験する方でもコントロールできる手軽さを実現しました。ギアコンビネーション部分においては、脚力に不安があるライダーでも、急な坂道を上ることのできるワイドなギア比を用意。また、雨天時でも安定した性能を発揮する油圧ディスクブレーキを採用しているため、あらゆる状況下で安心のライドを楽しめます。

IT'S A NEW DAY —— 「世界を一瞬にして変えるような体験を届けたい」という想いと共に、走り出した新型105。さらなるロードバイクの楽しさを世界中の人に伝えるため、これからも価値のある製品を生み出してまいります。

## 釣具事業

構造のヒントは“アルマジロ”  
遠投&キャスト性能がアップした新ビッグベイト

**ARMA BOOST**

大型魚をターゲットとしたルアーフィッシングで使用するルアー「ビッグベイト」。そのサイズ感から、ターゲットに対してのアピール力を誇る一方、風や空気の抵抗を受けることでボディが回転し、狙ったポイントへ正確に落とす“キャストアキュラシー”や遠投性能の面で課題がありました。これらの弱点を乗り越え、新たに誕生したルアーテクノロジーが「アーマブースト(ARMA BOOST)」です。その特長は、ボディ構造にあります。躯体の中間部に“関節”のような形状を持たせることで、飛行時に躯体が折りたたまれ、空気抵抗を受けにくい仕様となっています。ヒントになったのは、動物のアルマジロ。外敵から身を守るために体を丸めるその姿から、機構名の由来にもなっています。この構造により、キャストアキュラシーの向上はもちろん、飛距離は従来モデルに比べ大幅に向上。狙ったポイントへの確にルアーを送り届けることに成功しました。

これまでのビッグベイトの常識を覆すことに成功した「アーマブースト」。この新機構を筆頭に、釣果に差をつける信頼性の高いルアーテクノロジーをこれからも生み出してまいります。

## 3年ぶりの「シマノジャパンカップ」開催

釣技を通じて釣りの楽しみを体感する機会を提供するため、誕生した大会「シマノジャパンカップ」。2年の開催見送りを経て、今年5月に念願の開催復活を果たしました。長年参加されてきた方からは、「釣り人同士の交流の場を取り戻せた」と喜びのお声をいただきました。また、今回よりSDGs(世界が目指す持続可能な開発目標)のひとつである「海洋資源の保護」を目指すため、使用針数の制限や再放流(リリース)、そして競技時間の短縮など、魚への負担を低減する新たなルールも設けました。参加者の想いや、環境への配慮の重要性を改めて認識できた今大会。釣りブランドを代表する企業として、これからも釣り文化の発展に貢献してまいります。





## シマノトリコロールプロジェクト

シマノトリコロールプロジェクトでは、「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する」という当社のミッションに則り、環境・社会・文化というテーマで持続可能な社会の実現に向けた様々な取り組みを継続してまいります。

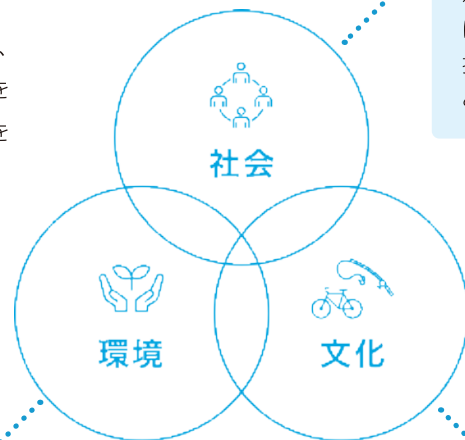
### 環境・社会・文化の結びつきを強め より一層の貢献を

当社では「持続可能な社会の実現」に向け、「環境」「社会」「文化」における活動の連携をはかりながら、より一層積極的な取り組みを推し進めてまいります。



#### 美しく良好な地球環境

当社の製品をお使いいただくフィールドである地球環境の改善と保全のための活動を続けることは、当社の基本的な命題です。



#### 人々の安心で健やかな生活

新たな価値を創造するための「ひとづくり」に取り組み、こころ躍る製品やサービスを提供し、社会とのコミュニケーションを密にとりながら、共存・共栄を図ります。



#### 文化の創造

我々の提供する製品を通じて自転車・釣りを楽しむライフスタイルを提案し、その楽しさをより多くの人々に伝え、健康とよろこびに貢献します。

### プロジェクトニュース

#### 環境

## CO<sub>2</sub> 排出量削減のための活動

本社工場 (Sakai Intelligent Plant) では、2012年から鋼材の熱処理工程で使用する「電熱式真空浸炭炉」の導入により、従来のガス浸炭炉と比較して生産効率が約1.6倍向上したほか、CO<sub>2</sub>排出量を従来の約1/3に抑えることができました。同様の設備は下関工場をはじめ、アジア拠点であるシマノシンガポールにも導入し、その他各工場へも展開を進めております。

また本社工場・下関工場及びシマノ熊本では2021年より再生可能エネルギー由来の電力を導入し、現在は同3工場における事業活動で使用する電力のうち99%を同電力で賄っておりCO<sub>2</sub>排出量が大幅に削減しております。

今後も、美しく良好な地球環境づくりに貢献するために、継続的な環境負荷低減活動を推進してまいります。



シマノ本社工場 (大阪府堺市)  
Sakai Intelligent Plant



シマノ下関工場 新工場 (山口県下関市)  
Shimano Shimonoseki Factory  
Intelligent Plant



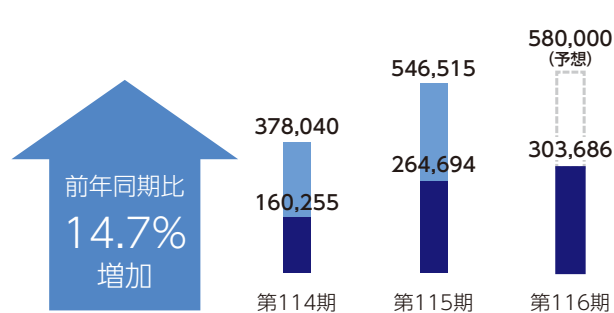
シマノシンガポール (シンガポール・Bulim Walk)  
Shimano Singapore Intelligent Plant

#### 文化

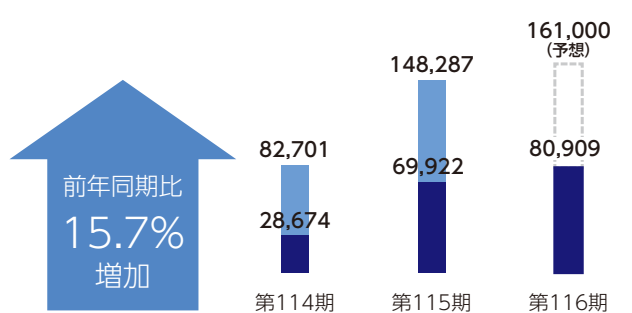
## ドコモ・バイクシェア様と連携 健康コンテンツ「JOY RIDE」に情報提供

当社は、2022年3月14日から2023年3月31日の期間において、株式会社ドコモ・バイクシェア様の健康コンテンツ配信プロジェクト「JOY RIDE」へ情報提供を行っております。当社で蓄積している自転車と健康に関する知見を、同社のユーザー向けコンテンツとして発信することで、健康に効果的な自転車の乗り方や知識を広く伝えることができると考えております。コンテンツ発信を通じて、自転車を利用される方々の健康増進を後押ししてまいります。

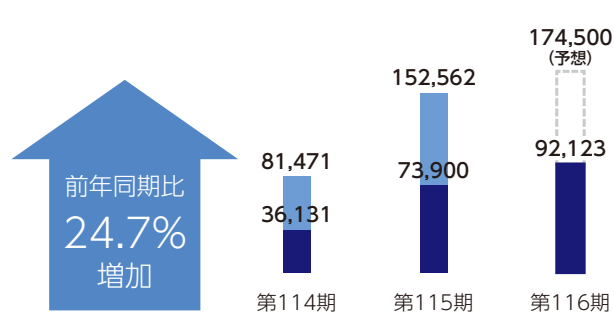
## ■ 連結売上高 (単位：百万円)



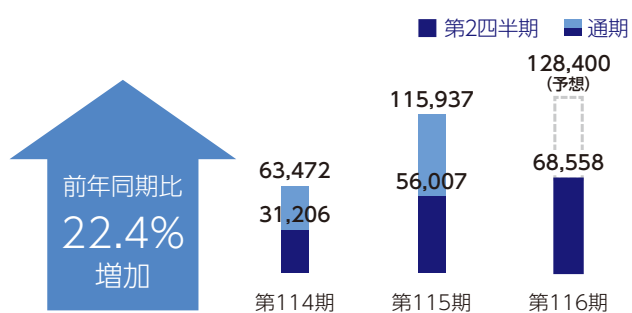
## ■ 連結営業利益 (単位：百万円)



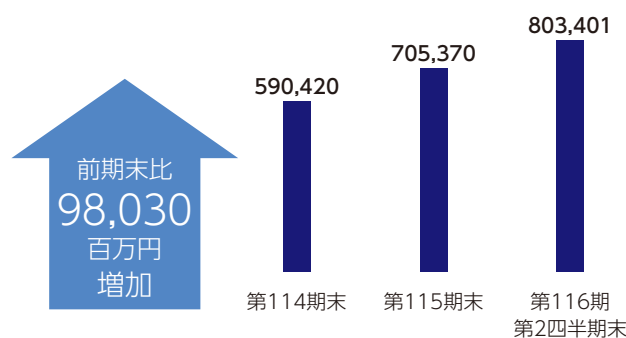
## ■ 連結経常利益 (単位：百万円)



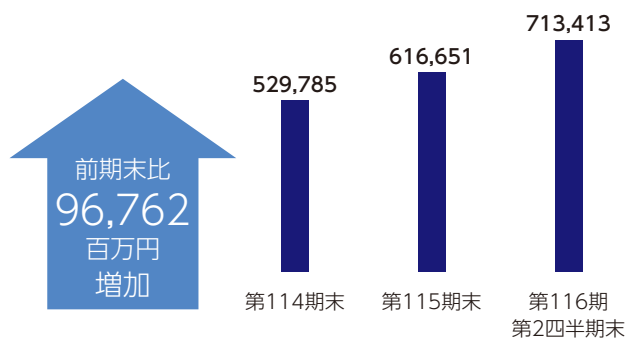
## ■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



## ■ 連結総資産 (単位：百万円)



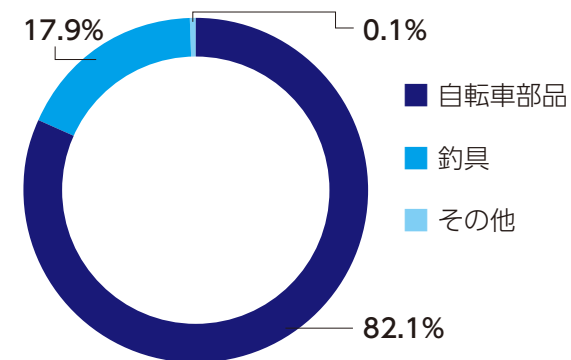
## ■ 連結純資産 (単位：百万円)



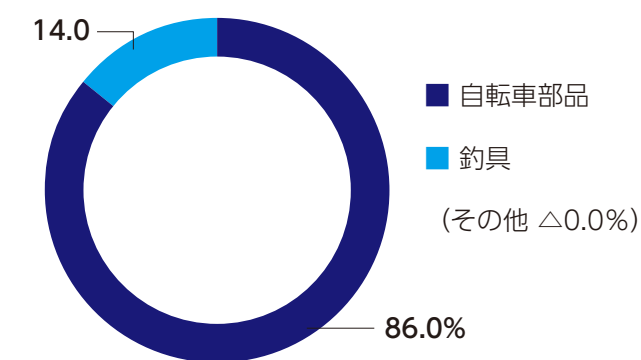
## ■ セグメント別の売上高と営業利益の状況

第116期第2四半期	売上高 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)	営業利益 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)
自転車部品	249,203	17.2%	69,581	20.2%
釣具	54,235	4.5%	11,335	△ 5.8%
その他	248	14.2%	△ 7	—%

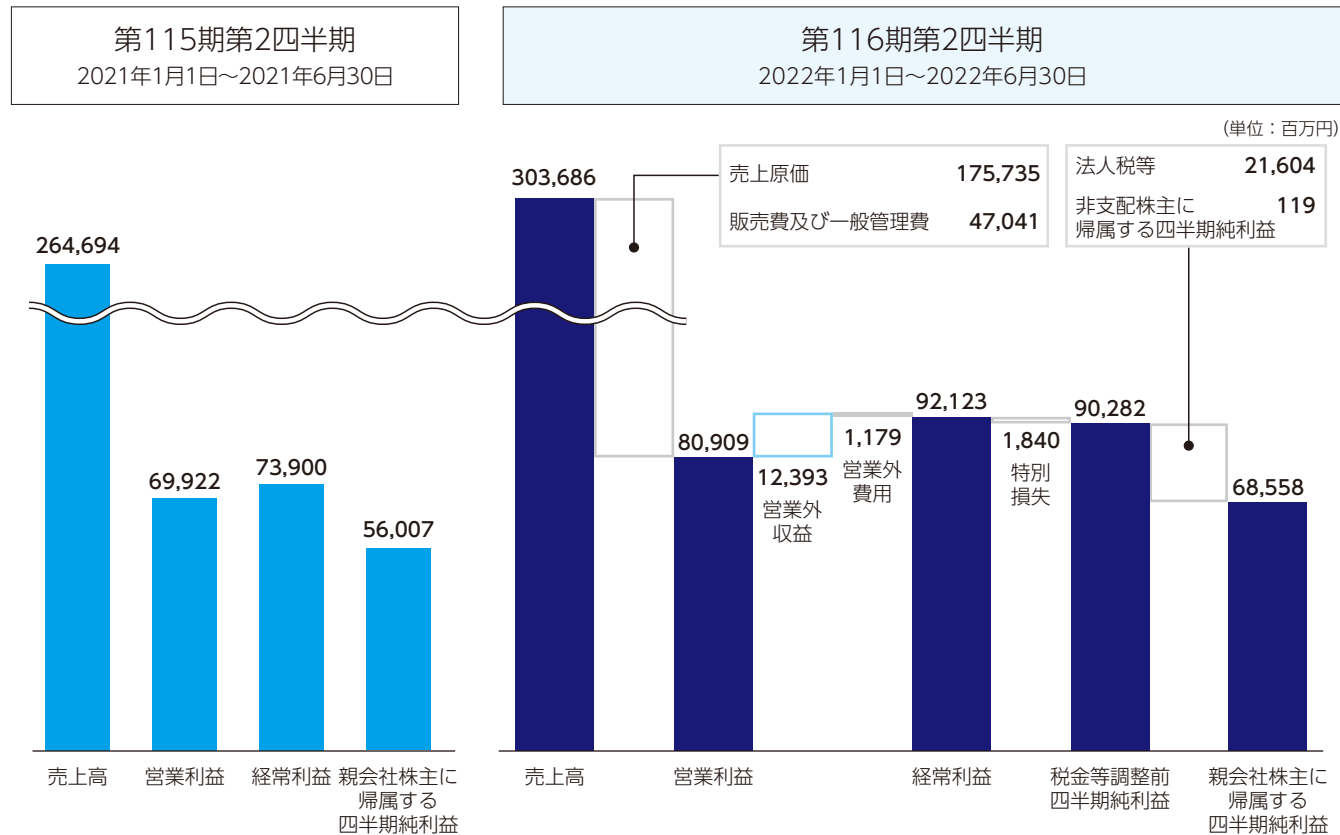
## ■ セグメント別の売上高比率(第116期第2四半期)



## ■ セグメント別の営業利益比率(第116期第2四半期)



## ■ 連結損益計算書 (要約)



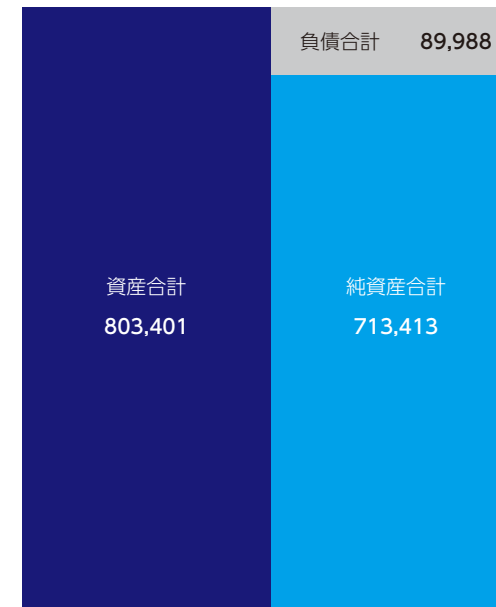
## ■ 第116期予想 (連結)

	業績予想	
売上高	5,800億円	前年同期比 6.1%増
経常利益	1,745億円	前年同期比 14.4%増
親会社株主に帰属する当期純利益	1,284億円	前年同期比 10.7%増

	セグメント別売上高予想	
自転車部品	4,750億円	前年同期比 7.1%増
釣具	1,045億円	前年同期比 2.1%増
その他	5億円	前年同期比 11.7%増

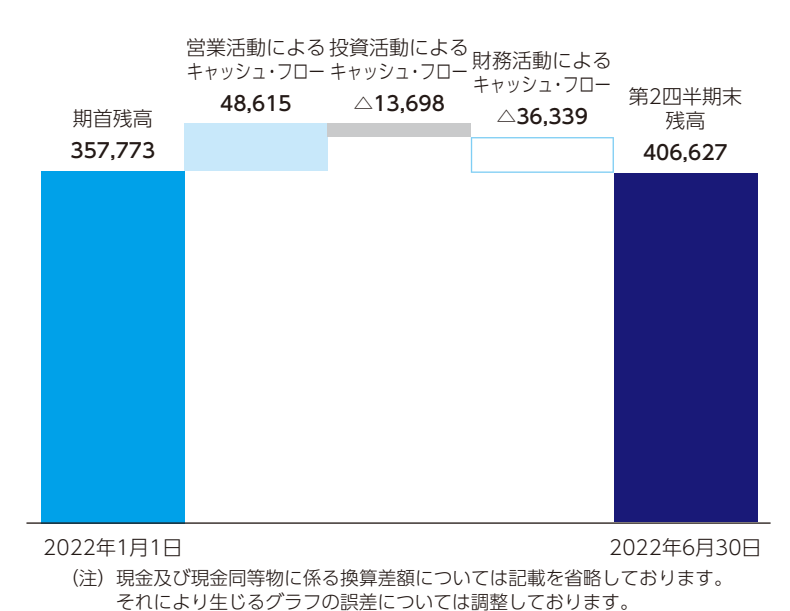
## ■ 連結貸借対照表 (要約)

第116期第2四半期末  
2022年6月30日現在 (単位：百万円)



## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

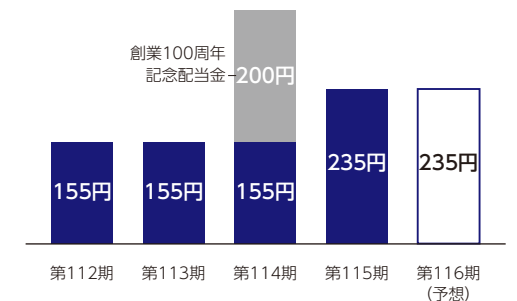
第116期第2四半期  
2022年1月1日～2022年6月30日 (単位：百万円)



## ■ 年間配当金の推移

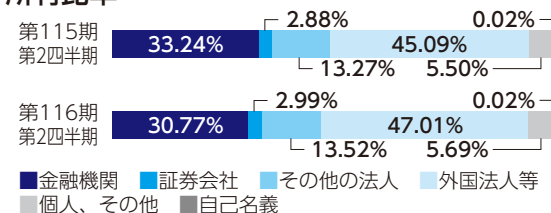
第116期の第2四半期配当金は、前年同期と同様の1株当たり117円50銭とし、年間配当予想額についても、前期と同様の1株当たり235円を予定しております。

株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、今後も安定的な配当の維持・継続とともに業績の進展に応じた成果の配分を行ってまいります。



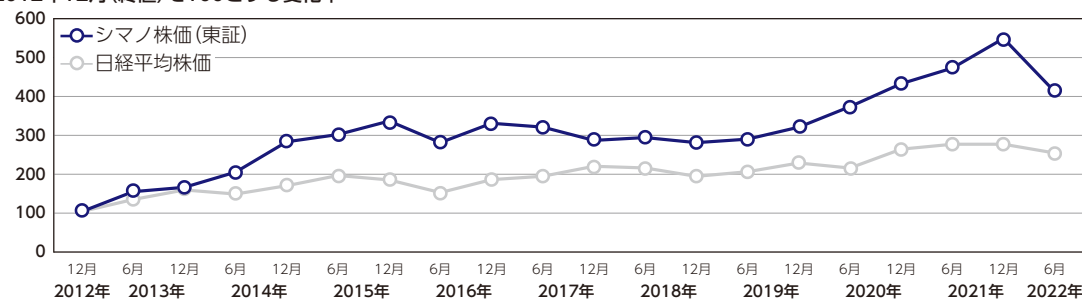
- 発行可能株式総数 262,400,000株
- 発行済株式の総数 91,160,100株
- 株主数 9,152名
- 単元株式数 100株

## 所有比率



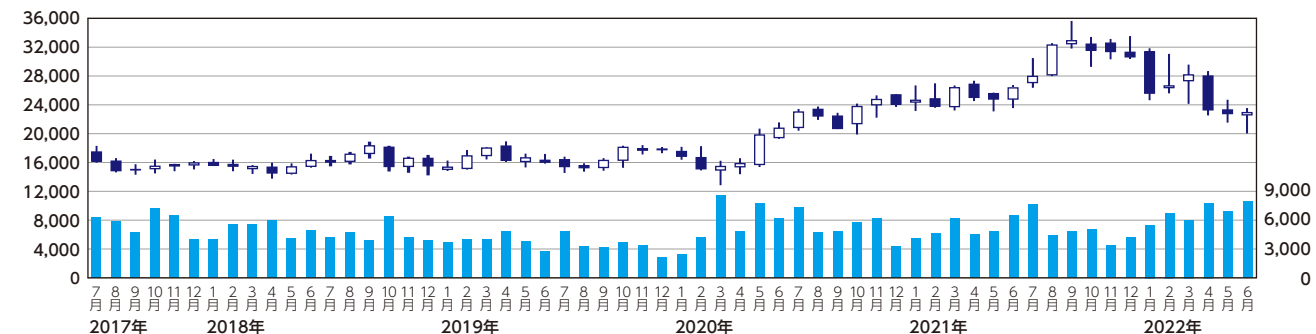
## 株価チャート

2012年12月(終値)を100とする変化率



シマノ株価(東証) (円)

シマノ出来高(東証) (千株)



## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,173	12.26
湊興産株式会社	7,739	8.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,428	5.96
JP MORGAN CHASE BANK 380055	2,287	2.51
株式会社スリーエス	2,171	2.38
日本生命保険相互会社	2,098	2.30
株式会社りそな銀行	1,711	1.88
SMBC日興証券株式会社	1,408	1.55
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,404	1.54
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,383	1.52

(注) 持株比率は自己株式 (21,117株) を控除して計算しております。

社名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
創業年月	1921年2月
設立年月	1940年1月
資本金	35,613百万円
事業内容	自転車部品、釣具、 ロウイング関連用品等の製造販売
本社	〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
URL	https://www.shimano.com

## 役員

代表取締役会長兼CEO	島野 容 三	上 席 執 行 役 員	清 谷 欣 司
代表取締役社長	島野 泰 三	執 行 役 員	大 津 智 弘
代表取締役副社長	豊 嶋 敬	執 行 役 員	大 竹 正 浩
代表取締役副社長	津 崎 祥 博	執 行 役 員	吉 田 保
常 務 取 締 役	チア チン セン	執 行 役 員	金 井 琢 磨
社 外 取 締 役	一 條 和 生	執 行 役 員	中 野 敬 介
社 外 取 締 役	勝 丸 充 啓	執 行 役 員	赤 川 満
社 外 取 締 役	榊 原 定 征	執 行 役 員	島 野 豪 三
常 勤 監 査 役	平 田 義 弘	執 行 役 員	島 野 勇 三
常 勤 監 査 役	樽 谷 潔		
社 外 監 査 役	野 末 佳 奈 子		
社 外 監 査 役	橋 本 敏 彦		

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
基準日	期末配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年 6月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告

当社のホームページに掲載いたします。  
(<https://www.shimano.com>)  
ただし、やむを得ない事由によって  
電子公告によることができない場合は、  
日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
ホームページURL	<a href="https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency">https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency</a>
よくあるご質問 (FAQ)	<a href="https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal">https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal</a> お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。
証券コード	7309